渡辺 明日香

・大震災の日、私はクラスのみんなと理科の授業を理科室で受けていました。「あっ地震だ！」と誰かが言ったとたん「ゴン」と下から突き上げるような大きな揺れがきました。私たちは机の下で3分ぐらいうずくまっていました。この時、仲間といる安心感から、あまり恐怖は感じませんでした。
・地震がおさまり、体育館に移動すると津波が来た後だったので、濡れている人や抱き合っている人がたくさんいました。私は家族を探しました。しかし、家族は見つかりませんでした。父は、船で沖に向かい、母は妹たちを迎えに行っていました。
・3日目に家族全員が揃うことができました。この時、仲間とは違う安心感があり家族っていいなと思いました。後から聞いた話ですが、涙など見せたことのない父が、涙で顔をぐちゃぐちゃにし、「子供たちはみんないるのか？」と言っていたと母から聞いて、父の私たちを思う強い愛情を感じました。
・避難生活はあまりつらいものではありませんでした。小さい子の面倒を見たり、ボランティアの方が来て演奏会を開いてくれたりと笑顔でいっぱいになっていました。また、世界各国から物資やメッセージなどからたくさんの勇気や希望をもらいました。このことから自分たちはたくさんの人に支えられて生きていることを感じました。
・中学生の私たちにできることは小さな事かもしれませんが、無駄とは思わず少しずつ地域に貢献していきたいと思います。また、大人の力を借りるだけでなく、自分達から行動を起こし、地域を笑顔にしていきたいと考えています。このことが、復興につながることだと信じています。
・震災前の地域には戻りませんが、新しい活気あふれる地域にしていけるように頑張っていきたいと思います。